

科目区分	専門教育科目	授業科目名	子どもの健康と安全				科目コード	26Y311	担当者	三原 ミヨ子			担当形態	単独
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	1年次	開講学期	秋学期	単位数	1	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	保育士必修			
授業形態	演習	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分		
実務の経験を有する教員担当科目	該当	実務の経験内容及び科目との関連	大学病院で看護師として、看護師養成所において看護教員の勤務経験あり。現場での経験を交えながら、保育現場で必要な医療や看護の専門的知識について講義を行う。									科目に含めることが必要な事項		

授業の主題	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助方法、子どもとのかかわりについて学ぶ	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	小テストは返却し、解説・質疑応答の時間を設ける Google classroomを活用し、課題作成と添削
授業の方法	パワーポイント、参考資料（事例検討資料）を配布し教科書に沿って講義・演習による授業	アクティブ・ラーニングの実施方法	協働学習やグループディスカッション、演習、調べ学習を取り入れる。

回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	オリエンテーション（シラバス、授業の概要を説明） 子どもの健康と保育の環境	事前：教科書1～16ページを読む 事後：子どもの健康について理解し、大人との違いについてまとめる	
第2回	施設の衛生管理・衛生環境、危機管理と災害への備え	事前：教科書25～29、36～41ページを読む 事後：施設における危機管理について自らの考えをまとめる	
第3回	事故防止及び安全対策	事前：教科書30～35ページを読む 事後：園で起こりうる事故について復習し、事故予防としてできることを考える	
第4回	感染症の予防と対策、体調不良や傷害が発生した場合の対応	事前：教科書53～62、77～87ページを読む 体調不良や傷害が発生した場合の対応について振り返る。 心肺蘇生法の予習（心肺蘇生法について、動画を視聴し事前学習）	
第5回	小テスト（子どもに多くみられる感染症の疾患、症状他） 救急処置及び心肺蘇生法（小児・乳児の救急蘇生法とAEDの使い方）	事前：教科書63～69ページを読む 事後：体調不良や傷害に対して正しい対応ができるよう復習し修得する。小児の救急蘇生法の課題学習	
第6回	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応	事前：教科書112～121ページを読む 事後：個別的な配慮について理解し、保育を行う上で必要な関わりについてまとめる	
第7回	保育における保健活動について	事前：教科書137～148ページを読む 事後：保育における保健活動について復習し、保健指導の方法について考える	
第8回	年間保健計画の立案と評価、講義の振り返りとまとめ	保育施設における保健だよりを作成し提出。 これまでの講義を振り返る	
		事前・事後 学修時間 (分/授業1回)	180分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート/小林美由紀/診断と治療社	受講生への メッセージ	現代社会において、保育園や幼稚園での事件、事故が続いています。保育者として子どもの尊い命を守ること、安全を確保した対応は重要な役割です。学習を深め、事故を未然に防ぐための正しい知識と子どもへの適切な対応の習得を目指しましょう。
参考書 [書名/著者名/出版社]	子どもの保健と安全演習ブック/小林玄・櫻井ますみ・長谷川美貴子/ミネルヴァ書房		

評価基準																
学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点学修成果の(%)	評価方法の配点比率 (%)					学修成果の小分類			尺度					
			定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S : 100~90%)	レベル4 (A : 89~80%)	レベル3 (B : 79~70%)	レベル2 (C : 69~60%)	レベル1 (F : 59%以下)
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	尽心	① 学習意欲														
		② 規律性														
	知識・技能	③ 知識	45	25	10	5		5	子どもの健康を理解し、けがや病気の予防行動を実施できる。	専門的知識	筆記試験、臨時試験提出物	子どもの健康を十分に理解し、けがや病気の予防行動について述べる事ができる。	子どもの健康を十分に理解し、けがや病気の予防行動についてある程度述べる事ができる。	子どもの健康を理解し、けがや病気の予防行動について述べる事ができる。	子どもの健康を理解し、けがや病気の予防行動についてある程度述べる事ができる。	子どもの健康への理解が不十分で、けがや病気の予防行動について述べる事ができない。
		④ 技能														
	創造	⑤ 情報活用能力														
		⑥ 課題解決力														
	表現	⑦ 言語活用能力														
		⑧ コミュニケーション力														
	実践	⑨ 主体性	55	25	10	10		10	事故発生時に適切な対応がとれる。	責任感(子どもの命を守る適切な行動)	筆記試験、臨時試験提出物	事故発生時の適切な対応を十分に理解し、他者に説明できる。	事故発生時の適切な対応を十分に理解し、ある程度他者に説明できる。	事故発生時の適切な対応を理解し、他者に説明できる。	事故発生時の適切な対応をある程度理解し、他者に説明できる。	事故発生時の適切な対応の理解が不十分で他者に説明できない。
		⑩ 協働性														
合計		100	50	20	15		15									